

## 下田歌子文書(二)

— 翻刻 —

『欧米二州女子教育実況概要』自筆草稿 附 浄書稿  
『英佛獨伊墮白瑞米<sup>加奈太合衆国</sup>女子教育の概要』自筆草稿

小林 修

### 〔解題〕

本稿は、実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館所蔵の「下田歌子関係資料」の中から、下田歌子 ①「欧米二州女子教育実況概要」 ②「英佛獨伊墮白瑞米<sup>加奈太合衆国</sup>女子教育の概要」自筆草稿を翻刻するものである。一八八五（明治十八）年、華族女学校開設とともに幹事兼教授に任ぜられた下田歌子は、一八九三（明治二十六）年九月から一八九五年八月までの約二年間、常宮周宮内親王御用掛として欧米各国の女子教育視察のため宮内省より派遣された。訪れた国は、②の標題にあるように、英吉利（イギリス）・仏蘭西（フランス）・独逸（ドイツ）・伊太利（イタリア）・墮太利（オーストリア）・白耳義（ベルギー）・瑞西（スイス）・亜米利加（アメリカ）の八ヶ国（標題に米と併せて「加奈太合衆国」とあるが、北米カナダには立ち寄っていない）であり、主にイギリ

スに滞在して欧州各国を訪れ、アメリカ・（カナダ）は帰国の途次立ち寄ったものである。本自筆草稿は、帰国後の一八九五（明治二十八）年から翌年にかけて宮内省への報告のため起稿された草稿と考えられるが、完成稿及び宮内省への正式報告書の有無に關しては未詳である。なお、本『年報』第八号に掲載の久保貴子翻刻「内親王殿下御家庭教育案 草稿」（内題「内親王殿下御家庭教育に關し常宮周宮殿下御養育主任從二位伯爵佐々木高行殿よりの下問に対する鄙見」）も同じ欧米女子教育視察報告と見做されるもので、同時期に執筆されたものと考えられるが、これは「内親王殿下御教育意見 下田歌子」と題して『帝室制度資料 上巻』（伊藤博文公編、金子堅太郎・栗野慎一郎・尾佐竹猛・平塚篤校訂、昭和十一年、秘書類纂刊行会）に収録、活字化されている。しかし、本草稿に關しては、宮内省及び政府関係刊行物で活字化されたものは見られないが、下田歌子編・大日本女学校蔵版『泰

西婦女風俗』(明治三十二年八月、東京郁文社・大阪積文社)に内容的に改稿の上吸収された部分が見られる。また下田歌子『泰西所見 家庭教育』(明治三十四年二月、博文館)もこの時の西欧女子教育視察が反映されている。

なお、本翻刻作業終了後、国立国会図書館蔵「長崎省吾関係文書」中の(内親王殿下御家庭教育二関スル意見 他)(145-3)に、「欧米二州女子教育実況概要」「英佛獨伊奧白瑞米<sup>加奈太</sup>合衆國女子教育の大意」の写本があることが判明した。また本誌前号所載の「内親王殿下御家庭教育に関する意見」さらに「内親王殿下御家庭教育ノ参考附録」も含まれたものである。これら一連の文書は「下田歌子」文書であるとの記載はない。何れも「宮内省」用箋に墨書されたもので、筆跡も下田歌子とは異なる。したがって、下田歌子による宮内省宛て正式報告書の写本と推定されるが、原本の有無はやはり未詳である。この写本が「長崎省吾関係文書」に収蔵された経緯も必ずしも詳らかではない。因みに、長崎省吾(一八五二-一九三七)は嘉永五年鹿兒島生まれ。明治期の外交官・宮内官僚である。ロンドン公使館勤務の経歴もあるが、明治十五年に帰国しているので、下田歌子欧米視察時期とは重ならない。宮内官僚としては、式部官、宮内大臣秘書官、調度局長を勤めた。

\*

本翻刻の底本とした自筆草稿の体裁は以下の通りである。

- ① 「欧米二州女子教育実況概要」(ラベルシール無、整理番号102)「華族女学校」用箋(朱縦罫紙)に墨書、袋綴。草稿・

浄書稿共四丁。後付け表紙一葉

- ② 「英佛獨伊奧白瑞米<sup>加奈太</sup>合衆國女子教育の大意」二分冊

第一分冊(ラベルシール貼付 S/コ96)は、「華族女学校」用箋(朱縦罫紙)に墨書、袋綴。目次案二丁二種類。「総論」十二丁。表紙無し、裏表紙(白)一葉付き。

第二分冊(S/コ97)は、同じ「華族女学校」用箋(朱縦罫紙)に墨書、紙縫り袋綴。表紙裏表紙とも白紙各一葉。八十丁(含半葉切斷数丁)。本稿では「中等社会女子教育」迄(四十一丁)を翻刻した。

### (凡例)

一、前書きと見られる①に関しては、浄書稿を翻刻し、一部汚損?による空白不明部分は草稿から補った。句読点は適宜これを付した。

一、②の草稿は未定稿と見られるため、画像で例示した如く、抹消部分、訂正、加筆等が極めて多く、行数、行毎の字数は一定せず、丁毎の字数もかなりの増減が見られる。したがって、「報告書」としての読み易さを優先し、煩雑な丁付けは省略した。

一、加筆は多く上部欄外に記され、○・×・⊗等の符合で挿入箇所を指定しているので、本文中に挿入し、ゴシック体で示した。また大幅な抹消部分や空白部分もゴシック体でこれを

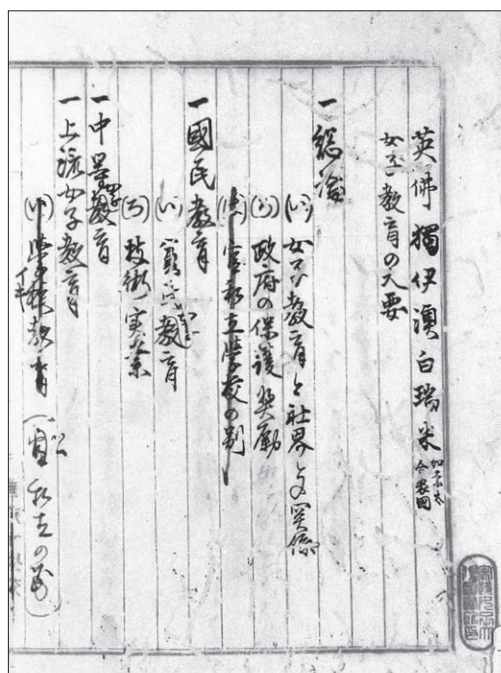
明記した。

一、句読点は原本には無いため、適宜これを加えた。

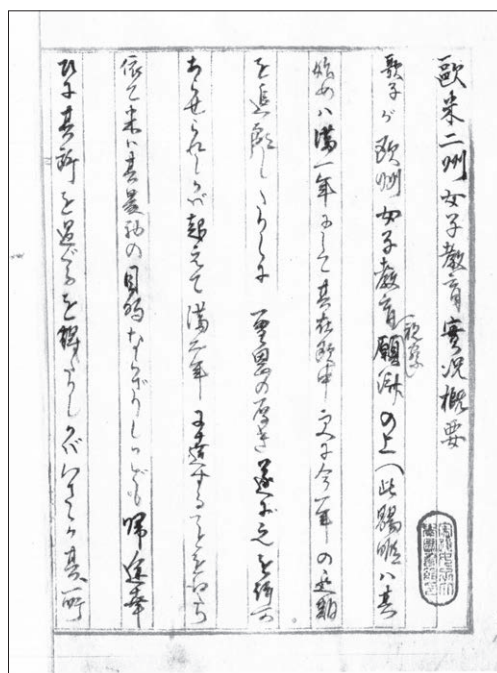
一、熟語等の用字について、「飢寒」・「餓寒」、「塙」・「澳」など両用されているものは、統一せず、そのままとした。また、「割煮」(割烹)、「承細」(詳細)、「国維」(国威)等も原文通りとした。

一、国名、地名、人名の漢字表記には適宜ルビを付した。例、羅馬、<sup>プロシヤ</sup>スウェーデン、<sup>パリ</sup>巴府、<sup>ナポレオン</sup>奈翁、等。また、漢文的表記にも適宜ルビを付した。例、<sup>かくのこ</sup>如斯、<sup>なかんづく</sup>就中、等。さらに難読漢字、<sup>みな</sup>僉、<sup>ごうごう</sup>蠶蠶、等にもルビを付した。なお、判読できない文字は□で示した。

一、本文中に(注)を加えた箇所がある。例、陶児(注 掏摸か)、加教(注 カトリックか)



資料② 英仏独伊澳白瑞米加奈太合衆国女子教育の概要



資料① 欧米二州女子教育実況概要





資料②「英仏独伊澳白瑞米女子教育の概要」(実践大学図書館蔵)

## (翻刻) 下田歌子「欧米二州女子教育実況概要」自筆草稿

歌子が欧州女子教育視察願済の上（此賜暇ハ其始めハ滿一年にして、其在欧中更に今一年の延期を追願したるに、皇恩の厚き遂に之を許可あらせられしかば、超えて滿二年に達することを得たり。依て米ハ其最初の目的ならざりしかども、帰途幸ひに其所を過ぐるを得たりしかば、いささか其一所見を加へて、以て題するに欧米二州を以てせり）其滿二ケ年巡回せし英、佛、獨、伊、澳、白、瑞、米<sup>加奈太</sup>合衆國の内、英国に止まること最も長く、為に其滞在中親しく交際往来又は宿泊せし社界ハ上中等に多く、此等女流が親切懇篤なる斡旋によりて、皇族の貴婦人方、殊に女皇陛下にも謁見し、尚且特に其常住の宮殿に召して午餐を賜はり、親しく女皇と談話するの榮をも得たりしかば、同国に於ける上流及び中等下等各種の官私立女学校家塾、又ハ其家庭教育の形状をも細かに視察するを得たりと雖とも、他邦に於ては其滞在日数の久しきを得ざりしが故に、其家庭教育の承細<sup>マツ</sup>を充分に取調ぶること能

ハざりしハ頗る遺憾なりき。（但し、滞在日数の長きは英に垂<sup>ツ</sup>てハ佛にして、殊に大いに其便利を得たりしハ、歌子が同伴の女友堀江義子巴里府の某塾に留学せしが為め、其同塾女友の親戚、當時の内閣大臣よりも招待せられ、又其家庭にも親しく出入して、其子女教育の現況をも見るを得たりき）然れども幸ひに身、女性なるを以て其交際の日浅く其滞在の時短かゝりし国と雖も、欧米に在りてハ男子にハ憚りて語らざる事、見さざる所をも聞見することを得たりしハ実に又望外の悦びなりし。今爰に即ち其巡覽せし欧米各国女子教育現況の概略及び各国政府当局者への調査に係る確実なる報告書中より、其要を抜き彼此対照参考して以て左に之を摘述せんとするものなり。

\* \* \*

(翻刻) 下田歌子「英佛獨伊塙白瑞米加奈太合衆国女子教育の概要」

自筆草稿

目次案A

一 総論

- (い) 女子教育と社界との関係
- (ろ) 政府の保護奨励

二 国民教育

- (い) 貧民女子教育
- (ろ) 技術実業

三 中等女子教育

四 上流女子教育

- (い) 学校教育(公私立の別)
- (ろ) 家庭教育

\*国家教育の所へ (1) 徳育の教育

- (2) 学科程度其方針並ニ科目

\*学校教育の所へ (3) 就学年限

- (4) 学資

- (5) 躰育の方法程度

\*家庭教育の所へ (6) 就学中及び前後の家庭

- (7) 退学後の結果

\*別項 巡回中の所感

\*学校教育の所 (8) 美育の方法其結果

英仏獨伊塙白瑞米加奈太合衆国 女子教育の概要

目次案B

目次

一 其総ての事ども

- (い) 女子教育と社会との関係

- (ろ) 女子教育上国家の義務並ニ其奨励

一 国民教育

- (い) 貧民女子教育

(ろ) 技術実業

一 中等社会女子教育

一 上流女子教育

(い) 学校教育(官私立の別)

(ろ) 家庭教育(就学中及び前後)

(一) 徳育の基礎

(二) 学科程度方針並ニ課目

(三) 就学年限

(四) 学資

(五) 躰育の方法程度

(六) 美育の方法其結果

(七) 女生徒退学後の結果

(八) 巡回中の所感

総論

\* (上部欄外) 女子教育と社会との関係

女子教育上国家の義務並ニ奨励

凡そ欧州の所謂文明なるものハ、疑ひも無く現世紀に至りて甚しき長足の進歩をなせしや明らかにして、且其文明を産みたる母ハ、即ち国民的教育其ものなりといふも不可なかるべし。而て、其漸次改良進化せる教育の沃野に培養せられたる一般の女子が、如何に其社会全躰の徳義を強固にし、其認識を助長せしめ、且其慈愛の懷ろに撫育して彼等嬉戲<sup>マヤ</sup>の間に其子女を薰陶教育したる国家的志想のいか程彼等を感化裨益して、以て其身体強健志氣闊達なる国民を作り、遂ニ能く宇宙を睥睨して、この憐むべき東亜、即ち世界の三分の一に居る广大肥饒の良国土も我が大日本帝国を除くの外、更に欧米人が馬蹄の塵を蒙らざる所無きに至れるハ遺憾ながらも欧米近世の歴史上に応々之を徴するを得べく、尚其教育の社会に及ぼしたる影響及び其結果ハ爰に項を追ひ條を重ねて

次第に摘述すべし。

(欧米)

抑も欧米諸国に於て(単に米とのミ記すハ実合衆国なり、以下も)女子を尊敬するの風俗ハもととして彼の西教の本旨なる一夫一婦の制に原因して、即ち女子が其夫に対する貞操と同じく男子も亦其婦の為に徳義を守ざるべからずとせし教へより来たるもの、其重きに居るなるべし。

(以下三行抹消)

蓋し世界文明進歩の順序ハ其国躰の如何と其人種の異同により、彼我又甚だ同じからざる所少なからざるべしと雖も、要するに其蒙昧未開の頃、氏族政治より漸々封建的組織となり、遂に立憲政体に移りたるが如き、其進化の順序ハ同一轍にして決して次第の反対變動するものあるを見ず。然るに、其中世期彼の封建時代に於て、社会の女子に対する感情取扱ひ等、東西彼我相ひ比較対照する時ハ実に霄壤もただならざるが如き差異あるを見る亦奇なりといふべし。即ち我が国(支那も大抵同様なれ共其戦乱の

世に著しく顕れたる女卑の風ハ我が国を以て最とす)戦戦の世(即ち封建時代)男子ハ其軍功により武勲によりて家を興し名を挙げ、尚且其徳録ハ世々に伝へて(男児にのミ)以て父母妻子隸属を養ふに足り、其法律の制裁より其社会の取扱ひより、総て之を女子と比ぶる時ハ殆ど同一人種に非るが如き制度習俗の風潮に圧へられたる女子が地位の最低に下りしハ、即ち是の封建時代武家執政の世に起こりたるものなりき。是に反して欧州に於ては、其戦乱時代(\*上欄外 其強を挫き弱を助くる武人的俠氣よりして知らずしらず)女子を保護し、女子を敬愛するの度を増進し、又彼の羅馬滅亡後其濫逸墮落の悪弊終に其国維を萎靡収縮し了りたるに懲りて大いに一夫一婦の制を施し、以て能く其風教を履革矯正せんとし、而して一方にハ暗澹たる戦雲漸く消じて、始めて太平の白日をみることを得るに当り、彼等男子ハ辛うじて其砲烟硝火の中、生死存亡の境を離れ、始めて其春風駘蕩たる故国の楽園に帰り遊ぶに及びて、実に其敬愛親昵べき溫柔なる女子に接し、懇ろに彼れが甘心を求めんとし、彼れが愛情を繋がんとして、覚えず其尊敬の度を暴騰せしめたるも亦其一原因なりといへり。兎に



も角にも女子が其社会に於る尊卑の差ハ如斯東西相反したりしハ疑ふ可からざる事実なりとす。

蓋し欧州に在りても其封建時代領主が其封内の女兒を使役し臣妾とせし類、全く我が東洋歴史に相似たること少なからずと雖も、爾後ルーテルが彼の宗教上に起したる一大革命ハ能く其天則なる一夫一婦の法を死せる聖書中より復活し、弊衣徒跣以て能く其法徳の跡を欧州の山尽る所に迄及ぼしたる大功績により、遂に欧米社会上に顕れたる其国民男女夫妻が提携し相ひ維持せる徳義の光輝燦然として今日如斯秩序ある社界を形づくるに至れるも、蓋し是に外ならざるなり。

(但し、其光りの明らかなる所影彌暗しの諺の如く、其顕れざる所の匪徳悪行ハ必ずしも之れ無きを証する能はずと雖も、其外面の整然たる其内部も或る部分を除きてハ実ニ甚だ賞賛すべきの躬行多しとす。蓋し彼レ欧米各国ハ全く西教の力にして、然く文明なる社会を作りなしたるハ疑ひも無き事実なりと雖も、我が国体と習俗の相異なる仮令彼国に在りてハ完全無欠の美事なりとも、決して今俄かに之を取りて我れに用ふるの不可なるべきはも

とより無論の事なるべし。況んや利害相伴ふを免れざる彼れが宗教彼れが教育、其我が見て以て参考とせんと欲するに当たりても充分の注意を要すべき事ならん)

(英)

さて此女子教育の発達ハ英国に在りてハ、クイン、エリザベスの時代より漸次其歩を進め来たりたりと雖も其著るしきは、当今ビクトリア女皇が治世の下に其速力を早めたるものなりと云ふ。(勿論欧州各国其現世紀の始めより、其進歩の度ハ増進せしと雖も)而して其即位の初期に在りてハ上流の女子も猶其綴字の方法をしも一々能く知りたる者ハ、其社会一般よりしてハ却て物識顔なりと誇られし程にして(稀レにハ博識の女学者有之レにもせよ)其貴女が専ら学ぶ所のものハ大抵語学文章、音楽等の数種に過ぎず。其女子に在りてハ仮令尊貴の家なりとも其家を主るに当りて必ず一通りハ心得置くべき裁縫料理等の方法の如きも、単に下等の賤女が習ふべき末技なりとして、更に注意する者之レ無かりしが如し。是レ一つハ其尊卑の懸隔甚しく、現今の如く上流婦人ハ殊に全国女子の模範として、入りてハ能く其家政を整理し

其子女を教育し、出でてハ能く其公共の事、即ち其撫民の義務を盡さんが為に、孤児、貧女、病婦等を救ふべきの責め重からざりしにも困<sup>よ</sup>れるなるべし。況<sup>いは</sup>んや其一般女子教育の如きに至りてハ実に今日に比して其長短を論ずべきにしも非ず。其貧<sup>ひん</sup>窶<sup>く</sup>なる職工女が労働力役のさまのいかに憐れなりしかを云ハんに、彼等ハ其服役の時間に一定の制限も無く、又其衣食の度の其労力に堪ゆべきや否やを注意觀察する人も無く、星に出で星に帰り裸裭の衣能く其肌膚を覆ふに堪へず、醜惡の食能く其衛養に充つるに足らず、尚且其傭主が過酷なる笞の下に叫び、其峻嚴なる寒暑の為に犯されて地下暗黒なる破室の内に空しく其性命を失ひし者、果して夫レ幾<sup>よ</sup>くなりけん。是に於て乎往る千八百七十二年英政府ハ国民教育令（男女両性に向ひて）なるものを發布して大いに其国民一般の知徳を進め、又能く其牀育を勉めしめ、又竊<sup>ひそ</sup>かに強者が弱者を凌ぐの弊を押へ、弱の強に庄へらるるの酷を解かんことを欲し、其各学校に与へたる特典ハ賜金及び其教師待遇等の方法の丁寧親切なり。之に反して其学務委員が未就学者奨励督責に怠りたる、又其父兄が其法令に従ハざる者を嚴重に訓戒懲罰したる実

に勉めたりといふべし。

#### （欧米）

如<sup>かの</sup>斯<sup>の</sup>ハ単り英国のミならず、他の欧米各国政府も大抵大同小異の方法を以て其教育の普及を強硬的に奨励したりし結果ハ豫期の如く漸次国運を増進徐<sup>じょ</sup>暢<sup>ちやう</sup>せしめ、国に教へざるの民無く、家に学バざるの子無きに至れり。是故に其下等貧民の女兒等も漸く自活の生計を営むを得て、以て一家を為すに至り、其中等女子に在りてハ彼等が内を斉ふるに必須なる家事經濟の方法、子女教育の注意等ハ勿論、其夫を助け親に代りて社会の交際より其通信往復、□け伺ひ等、普通市民の義務に関する一切の事も大抵婦女の手に一任し得らることとなり、又其上流に在りても家を治め子を教ふことハ女子の天職として身自ら之を勉めざる可からざる義務とし、為に手工裁縫割煮<sup>マヌ</sup>の如きも一わたりハ之を学ぶの必要を感じしからに、其卑事ニ多能なる結果ハ、能く貧民の業務労働を思ひやり、又能く彼等を憐れむの情を深めて、遂に次第に公共慈善の美挙、日に月に多きを加ふるに至れるなるべしといへり。而て彼の敵国相ひ犬牙する欧州人が其止むを得ざるに迫られ、又其

先天固有の国民的団結力ハ、弥々益々強且固なるに至り、其女子に在りてハ、殊に其単一なる資性凝りて能く女子団躰を堅くし其団躰力ハ常ニ能く一致提携して社会の風教を維持矯正するに預りて大いに力あるを証するに至れるなりといへり。(委しくハ「空白」の所にいふべし)以上ハ欧米女子教育の社会全躰に及ぼしたる影響及び其政府国民の義務負担として之を保護奨励したる結果の概略なりとす。

## 国民教育

欧州至所の天地に伸暢普及せる国民教育なるものハ、既に早く其国民一般の義務として軍役に服せしむると同じく之を奨励実行せしむべしとハ、其各国政府が大抵同一の意見にして、着々其歩を進め来たりしと雖も、近世に至りて殊に著しき増進を促したるハ、即ち彼の千八百七十年普仏戦争の前後に於て、欧州全体政府も人民も非常ニ其国家的志想を注入すべき国民教育の必要を感じること切にして、大いに其普及を計るに力を用ふるに至れりとい

へり。蓋し仏帝那翁<sup>ナポレオン</sup>第一世が馬蹄の塵に汚されて憾みを其孤城落日の邊りに呑み、恥を忍び身を養ひ、以て其鬱憤を第三世那帝が栄華の夢將に破れんとする所に晴らしたる普魯沙<sup>プロシヤ</sup>軍隊の鋭鋒に破られ立つ足も無く一敗地に塗られたる其仏蘭国民が(以下一頁半空白)

(約二頁抹消) 健気にも其阻まんとする志気を励まし、其労れんとする国力を助け、朝野貧富の区別無く、老幼男女のけぢめ無く、協心戮力<sup>りきりき</sup>奮て能く其敵国に支出すべき(空白)の賠償金を僅かの間に返却し終りたる其勉勵其剛毅、実に賞揚賛嘆するに餘りありと云ふべく、其愛国的団結力の依て以て生ずる所は、実に此国民教育に根差したること決して争ふ可らざる事実なりとす。既に那帝第一世が女子高等教育を勉むる為に設立したる巴府<sup>パリ</sup>のレゾンドンノールなる女校の額には、Honneur et Patrie (名誉と本国)なる語を以て書かれたり。

### (欧米)

其他欧米各国が其教育てふもの、棟柱とし基礎とする所は皆国

民的組織よりして愛国の精神を養成するに外ならず。而て其共同団結の力と其慈善博愛の心とを培養し来れるハ、一つも精神的教育そのもの、薰陶感化に依らざることを無し。現に今獨帝が其社会党中過激なる反対者の日々に益々増加することを虞へて、為に大いに国教なるものを奨励し勉めて学校兒童德育の根本たらしめて、以て精神教育を奨励せられつゝある近況を見ても知らるべし。

且此の国民的教育なるものの主旨ハ、其一二特殊の者の為にするに非ずして、一般普通国民の為に其普及を欲するを以て目的とするものなり。故に彼の下等貧困の人民の如きも僅かに其力役に食む者、其学資に乏しき者の為には、或ひは其服役の時間を節して普通教育に就くの暇を与へ其資金を給して、之をして入校せしむるの数枚拳に暇あらず。故に弊衣疎食、途中土を担ふの賤民、路傍球を飮ふの兒童をも其道を聴き理を弁ふるに至りたる結果、社会的徳義の程度を高めたるや明らかにして試みに其一二の例証をいへば、都府市街（英の倫敦、仏の巴里、獨の伯林等□となる所に於てハ）を歩行せる異邦人種（黒人の如き）容貌体裁極めて奇異変態なるを覽るも、彼等ハ決して之を指ざし之を冷笑する等の

無礼を加へず。（\*上欄外 但し其内外交通の頻繁なるが為に外人を見馴れたるの習慣にもよるなるべきも）況んや其田圃に成熟せる果実を窃み其塀牆に落書するが如き悪弊の少なき、一つは警察の行届きたるも依るなるべしと雖も、もととして其国民普通教育の感化力大いに与かりて力あるものといはざる可からず。

以上説く所の如く、欧州一般の教育は（米は勿論）国民的一般普通教育を隆盛ならしめんと勉むること甚だ切にして、而して百般の事業學術も皆其社会国民の共同せる一大原動力の為に左右せらるゝこと多きが故に、今爰に其女子教育一般の事をいはんと欲するに當りてハ、其源なる国民普通教育を先にし尋で其最も力を尽して奨励誘導したる貧民教育に及ぼし、漸次遡りて中等社会女子教育より則ち上流貴女女子教育に及ぼさざれば、其組織方法より沿革の順序を明亮に理解するに易からざるべければ、（三行抹消）止む無くも爰に先づ最下等貧民女子教育の概要より先にいはんとす。

#### （欧米貧民教育）

欧米各国政府及び人民（勿論資ある者）が其貧民教育に力を用ふることは極めて懇篤切実なるものにして、是が為に其方法を講じ其費用を助け、又ハ身自ら教へを施す者の種類を大別する時ハ、一、政府 二、僧侶及び其信徒 三、貴族及び豪家等 にして、又、学校教師等の極めて多忙なる時間を割き無報酬にて之を教ふるが如き篤志の者も亦少なからず。

之が為に設立せる学校の種類も又三種に分かるべし。

一、公立 即ち国費よりなるもの 二、寺院立 即ち宗教の範圍、僧侶の手になるもの 三、私立 即ち特志者の建設<sup>ぶつ</sup>補助するものにして、大抵貴族豪家の連合組織により、又まれにハ一人にても設立せるものありと雖も、こハこれ殆ど第二者なる宗教の力、即ち其範圍内のものなりといふとも不可なか（学校の区別等ハ後段にいふべし）而して是等貧民を教育する学校ハ、無論無用謝にて之を教授するハ勿論、其修学ニ就きての費用一切若しくはハ其幾分に関する書籍筆墨紙等の如きも僉<sup>みな</sup>彼等に給与し又は貸与する事より其極貧の者にハ食物及び衣服等をも与ふることあり。

（技術実業）

其学科程度ハ、先づ大抵筆算の類、即ち其極めて普通実用に適するものゝみを教授し、漸次其義務学<sup>ごう</sup>齡を終わる比より各自適當の職業（其種別ハ学科課定即ち普通職業学校の所に云ふべし）を学ばしむる組織になせる学校等も少なからず。（\*上欄外 是等の生徒幸いに此の諸職業を学ぶに至れば其製作品より生ずる其力役賃金等を漸次学校資金と彼等が為の貯金とに積み置き、他日其自活の途に就く時、之を給与する等の方法を設けたるもあり）又幼稚園をも設けて其父母が毎朝定時職業力役に出る時、先づ其子供を此幼稚園に預け置き、其業を終へて家に帰るの途次又其所に至りて、彼等を伴ひ帰る等の至極便利なる方法もあり。又孤兒院の此種の学校に相連絡するありて、天下依る無きのあはれむべき孤兒等も其飢寒を知らずして、親切なる保母の手に易く眠り、樂しげに遊び、そのやゝ長ずるに至れば、此管轄中の幼稚園に入りて学校に登りて実用的普通の教育を受くるの仕組とす。（又別に諸職工<sup>よく</sup>の爲）に設けたる小児保護社様のものあり。是等は其職工男女が就業の時間中小児を預くるに当りて少数の銅貨を納めて之を依頼するもあるなり。額ハ英貨一、二ペンス割引ニスベシ、又



夜学の設けあり。やゝ年長の貧民男女が終日業務を卒へて夜食後其目的の学科を修めん為に此種の学校に通ふなれば、生徒が年齢に制限無きハ勿論、其教授法及び教場の体裁も亦甚だ異様複雑のものたるなり。而て其学科ハ大半普通のものにして、各国諸校大同小異なるも、主に筆算、簿記、各国語学等を修むる者、其多きに居るが如し。(但し、簡易なる其国の地理と歴史とは必ず之を課す)

以上述る所のものハ(三行抹消)大抵ノ其学校の男女共に入るべき組織なるが多き故に一牀に通じて云へるなり。中にハ女子のみを入れるものもあり。殊に加教(注カトリックか)のクローバン、基督教のミシヨナレー、即ち女宣教師の教うる学校に於てハ無論其女子のみを教育するを常とし(但し歌子が参観せし英倫動に於るミルドメイ女学校には、其夜学校にのみハ男女を通じて修学せしむるを見たり。)且彼等に授くるには、料理、裁縫及び洗濯等の諸科を以てせり。(委しくハ学科課定の所にいふべし)

又、子守学校、下婢学校、料理学校等の設けあり。是等ハ中等以下の女子にして相当なる学資を納め、以て此種の学校に來たり

学ぶ者も尠ならずと雖も、是等の諸学校も亦此貧困なる女子の為に施与の教授方法を設けて彼等をして其業に就かしむるの手段とせるものあり。

(以下、半葉裏面一頁空白)

又貴族紳掾家の子弟にも(\*上欄外 殊更に弊衣徒步して自ら是等貧民学校に來たり教ふるの特志者あるを見たり)其家に在る時ハ锦衣玉食、其出づる時ハ輕裘肥馬更に饑寒の何者たるを知らざるが如き貴夫人にして此挙あるが為に、彼の下賤貧困の子女も大いに其恩恵に感憤して、彼等が懶惰の性質を改め、又其不規の弊習を脱し、実に嘉みすべく賞すべき勤勉なる良民となる者亦尠なからずと聞きぬ。(歌子が親しく交際往來せし英国の一貴族、当女皇陛下の姻戚ノ某夫人の良人は(\*上欄外 身富貴の家に生活し、且)其齡既に古稀になんたるも関ハラズ毎日曜にハ必ず身自ら己れが資を出して設立せる其領内の寺院に至りて、配下の貧民に説教し、其婦人令嬢も、能く之を助力せり。

又其子息は殊に若年の貴公子なる自己の資産を投じて英京イーストエンドに貧民学校を設立し、一週に数回其処に至りて教を施し、常に艱造なる衣服を着、簡素なる食事を為して其教育と方法とに尽力しつゝあるを目撃せり)

如斯官民ともに協心<sup>りようりよく</sup>協力しての扶助と教育とに力を用ひたるの結果、漸く其目的を達するを得て、其正業に就くを得たる者次第に多きを加へて、窃盜<sup>びと</sup>陶児<sup>ちやうじ</sup>(注 掏摸<sup>ちうも</sup>か)等の如き犯罪者及び不正の業を営む者の数を減じたと当為者は語りぬ。

### 中等社会女子教育

凡そ国の東西を問はず世の新古を論ぜず、総て其国の綱紀を維持伸暢し、且其民の元気を振起増進するものハ大抵此中等社会の人民に在りて作るものゝ如し。何となれば其上流社会に於てハ、富貴の沢、常に其身を温して更に饑寒の辛苦を感じること無く、其入る時は数人の僕婢其左右に扈從し、其出る時ハ美麗なる車馬其願使<sup>さいし</sup>(注 願使に同じ)に従て走り、花の朝、月の夕、酒池肉

林、歌舞音曲の楽しみ、一つも其意の如くならざるもの無きが故に、知らず知らず下民の辛苦を顧るの念も 薄ら<sup>うす</sup>がざるを得ず、学を勉め技を励む堅忍の志も鈍らざるを得ず。是故に彼等ハ深く其人間以外、別に万古一遍なる神の存在を認めしめ、毀譽名利の上に超然たる安心立命の觀念と慈善博愛の性情とを養ひ、其貴族が品格を保つに於て必要なるべき相当の学科等(\*上欄外)を修めしめ、又其義務負担として貧民救助にはことに力を用ひしむべく誘導感化の方法に急々たる)欧米各国に於てすらも、猶富貴の家の子女ハ決して蜚雪の功を積み勉勵努力して以て始めて其好成果を得たる中等社会の人に及ばざる事常にして、何れの世、如何なる国に於ても其赫赫の績を青史の上に顕し昭々の名を百年の後に止むる者ハ大抵此階級より起これる人たるが如し。(但し稀れにハ其極貧の下民より起これるもあれ共、それすら過半ハ中等の人のある事故によりて、己れ又は其父母の俄かに零落したるが多く、全く賤業者及び流民よりせし者ハ其数甚だ<sup>なかな</sup>少なし。)就中欧米現今の實際に就きて見れば、其学を修め技を学バンとする者ハ、出来得べきだけ完全なる学校を撰び良師に就き良書を讀ひ、

又其教具器械一切の事も資を投ずること多ければ多き程其学を修むるに便且利にして、到底無資無産の者の（貧民に教ふべき学校等の設けは有之りしと雖も到底高等の教育を施すべきものには非ず）決して充分の学文技術を修むること能はざる時となり、従て天資如何に鋭敏の人なりとも学バざれば何程の業にも就くこと能はざる秩序的の世となりたるに於ては、殊に自今以後其下等貧困の者の一世を風靡すべき偉業を為すことの極めて難かるべきことを信ずるものなり。是故に欧米各国政府の方針及び国民の希望も僉此の中等教育を其中等社会に及ぼすことに於て殊に最も其力を用ふること多しとす。

（英）

さて、其女子が小学普通教育を終るや、英に於てハ少なくとも中学及び之に準ずる所の程度の学科を修めしめ、又は其父母或ひハ其女子の志願により師範学校、職工業学校、美術学校、音楽学校等各専門に就きて学ぶあり。其大学に入る者も亦少なからず。蓋し英国ケムブリヂ、ヲックスホルド両大学に於てハ（\*上欄外 其女子に大学講義の傍聴を免し、且或る学科をある程度迄学

バしめしことは二十数年前よりのことなりしかども、）十数年前よりしてハ、其法科の如きものを除き、他ハ僉男子と共に聴講せしめ、勿論着席及びコーレーヂは別にして、其出入も甚だ厳なり。其試験にも同等の問題を以てせり。唯女子の男子と其結果を異にするハ、未だ其学位を公けに授けることを許さざる迄にて、之も亦近々実施せるべしとの風評なりき。（\*以下、行横に細字 以上ハ、ケ（ケンブリッジ）ヲ（オックスフォード）両大学の事にして 蘇邦エヂンバラ大学にては近年女子ニ医学文学など学位ヲ授け、又倫敦大学にてハ男子同様試験合格の上ハ学位を授く）

（米）（獨）（佛）（伊）（奧）

而て、米は勿論女子に免する法学士の称号迄を以てし、其独逸の如きも却てヅルハム大学に於てハ、英に先んじて学位を女子に授くることとなせり。其他、佛・伊・奧・瑞の如きも僉女子の大学に入り、其男子と一同に大抵の学科を修るを得さしむることとなせり。而して一般女子の（大学には貴族女子も入学すれども、其多数ハ中等社会の女子なり）如斯高等の教育を修ることに就きて其得失論囂々として未だ全く一定せずと雖も、概言すれば其高

めんとするの論最も其多きに居りて遂に勝ちを制したるハ米にし  
て、次ハ佛獨英、次ハ伊、次ハ澳、殊に最低なるが如し。(其可  
否得失等の鄙見ハ結論にいふべし) 兎にも角にも其中等社会女子  
教育の進歩と普及とによりて(前段国民教育の所にもいへるが如  
く) 其国の風俗品行を矯正し、其国富実業の發達せしハ疑ひも無  
き事実なりと雖も、或部分に於てハ又女子が高尚なる学文技芸を  
好むに過ぎるの弊は又一種尊大傲慢、却て其天職たる女子の本分  
を尽すを欲せざるの傾きに至れる者無しとせず。

さて此中等の資産ありて各種の学校に通学し、又ハ塾舎に寄宿  
するハ其人の妻たり母たるべき一切の學術技芸を学ぶものハ勿論  
其願望により種々専門の学技を修メテ独立の生計を営む者も少な  
からず。(＊上欄外 学校と家庭教育とハ別記すべし) 故に其嫁娶  
するの後に於ても不幸にして其良人を失ひたる時、其資の能く其  
孤児を教育するに足るもの無きも、大抵高等の学芸を修めたる寡  
婦ハ単独にして能く亡夫の後を維持し経営するを得る等、大いに  
便宜を得ると同時に其不可なるものを言へば、其独立の生計を営  
むに難からざるが故に、己が自由を妨げられんことを恐れて、其

父母の諫めに背き、又ハ其夫の命を受くるを肯ぜざるが如き強情  
我憊なる女子も又之無しとせず。(＊上欄外 其米国大学の如き  
ハ、聴講の席に男女の区別を設けず、女子の寄宿舎も出入り随意  
にして、男女の生徒手を携へて逍遙散歩し、其旅行二迄両々相伴  
ふて人更に怪しまず、其結婚も自由にして大抵自己の撰定と希望  
により、其父母に告ぐる迄なるが如き、歌子等が目より見れ  
ば、実に驚くべき風俗ともいふべきを、此間自づから互ひに一定  
の区画ありて、其垣を越るに至り又其身を過つに至るものの存外  
に少き者ハ、又実に敬うべき宗教の感化と社会の制裁とに依れる  
なるべし。)(○これに対する鄙見ハ後段に譲る。)

而して中等女子が業務には、最も適當なるものとして其好評を  
博せしものは教師の職にして、其米に在りてハ、各小学校(男女  
徒を通じて)の教師ハ勿論、中学・大学に迄も近年著しく女教師  
の数を増せり。(其一端を云へば、一千八百九十年には全合衆国  
の男女の教員数、男十二万五千五百十五人、女三十三万八千三百  
九十七人なりしも、後二年を経て男ハ三千九百七十人を減じ、女  
ハ壹萬四千三百八十三人を増加し、此傾きを以てすれば、教師な

るものゝ職ハ女子の専有に帰すべきかの評あるに至れり）英国に於ても女教師の数ハ毎年漸くに増加し、其他欧州各国に於るもやゝ其傾きありといふ。（歌子が參觀せしヲックスホールド女子師範学校附属の小学校ハ、数年前より女教師のミに一任して男児のみを教授せしめしに、其結果甚だ良好なりと聞きぬ。）

其嘗て巡回參觀せし各国女学校の中、其最も学科程度の低きハ、塙国にして、其維納府中最も信用あると聞きし——女学校に就きて其女生徒の就学のさまより其言語動作の風采を見しに、

（\*上欄外 其教ふる所ハ極めて鄰近なる普通学科にして、音楽裁縫等割合に其重きに居り）却て我が日本女兒のありさま眼前に髣髴たるの趣きありき。（委しくハ学科程度の所にいふべし）然れ共欧米ハ其文字語脉の相似たる決して東西洋の異なるが如くならざるが故に、又其国体も大同小異なるが為に、其生徒が就学の労は決してわが国の如く甚だしからず。加ふるに其（\*上欄外 体育の充分なるが故に各生徒の身軀強壯にして、従て其記憶勉強力も亦乏しからざるが如し。尚又）教師の養成勉強法及び各教科書・教具の完全せる、最も彼等に裨益すること少なからざるを以

て、其学科の最低なりと認めし澳<sup>オーストラリア</sup>国女子校の如きも外国語ハ必ず二三ヶ国語を兼学び、其他の学科も程度の高からざる割合には能く實際に応用することを顧みて、わが女生徒を見れば決して之に増るもの多しといふに憚らざるを得ず。是レ一つは社会と家庭との組織習慣にも依ることなるべしと雖も（\*上欄外 又以て其教授法と諸教具の完全せることよること少なからざるが如し）わが教育に預る者審らかに爰に注意熟考せざる可からざるところなるべし。（家庭のことハ次にいふべし）

\* \* \*

（・以上「中等女子教育」まで了。  
・続く「上流女子教育」以下は次号。

こばやし・おさむ／下田歌子記念女性総合研究所 客員研究員・

実践女子大学 名誉教授